

●今月のインタビュー

有限会社丹後ジャージー牧場ミルク工房そら

代表取締役 平林 衛さま  
工房長 平林 文子さま



●今月の女流・言葉涼し

田部井 淳子さん

発行元 (株)日本総合コンサルティング/北野会計事務所

発行日 2009年12月1日



私は昭和37年11月、大阪府泉佐野市に生まれました。父は6人兄弟の末っ子で、母は4人兄弟の末っ子、末っ子同士の両親でした。その両親は子供の頃、農作業の手伝いが忙しく、いずれも中学校までの教育であり学校には行けなかったそうです。

私の父は昭和13年生まれで、私と同じ寅年です。父はとても短気でけんかっばやく、なかなか定職につけなかったようで、私の記憶では、鉄工所で働いていたかと思ったら、ダンプカーの運転手になっていました。母はずいぶん苦勞したようです。私も小さい頃に学校で父の職業を聞かれた時は、何と答えていいのかわからず困ったものでした。

そんな父は運動神経がよく、子供の頃は水泳大会で活躍していたそうです。私が生まれてからも、大好きな祭りで中心的存在だったと聞いています。実際、私が小さい頃、父がたたく太鼓のとなり座っていた思い出があります。

父にはとても可愛がってもらいました。父の帰りが遅いと、母に「お父ちゃんはまだ帰ってこないの？」と何度も聞いたものでした。

高校時代に私が悪さをして、母が学校に呼び出されることがあっても、父は私に決して手をあげませんでした。父親となった今、自分の子供に手をあげないのは、そんな父の影響かもしれません。

さて、母は昭和17年生まれで、私を20歳の時に、その3年後に弟を出産しました。母はとても働き者で、自分のことを後回しにしてまでも私たちのことを第一に考えて育ててくれました。

私が子供の頃に祖母が亡くなり、母は祖母が営んでいた駄菓子屋を引き継ぐことになりました。その後、駄菓子屋だけではやっていけないと考え、玄関のスペースでお好み焼き屋も始めたのでした。お店を一人で切り盛りする母は、とても忙しかったようです。365日のうち363日は、朝7時から夜10時までお店を開け、ひたすら働いていました。

そんな母は、私と弟を大学まで進学させることが一つの夢だったようです。「自分たちは、勉強をしたくてもできなかつた」というのが口癖で、いつも私や弟を叱咤激励してくれました。

このような両親のもと、私はいろんな夢へと向かって歩いていくことになります。

北野の履歴書  
夢の途中  
北野慎二

第1回

～ 父と母 ～

このコーナーでは、弊社代表北野慎二のこれまでの人生を、自らの言葉で2年(全24回)にわたってご紹介します。